

ポート・オブ・サクラメント 補習授業校校歌

一

シエラ・ネバダの大連山
澄み切った青空の下
アメリカ河を 母にして
州都サクラメント補習校
みんなが学ぶ日英言語
めざそう、ちっちゃい地球人
世界に向かって飛び出そう

二

シヤスター山の大高原
大自然に育つセコイア
サクラメント港を父にして
カリフォルニア黄金の都
みんなで習う日米文化
励もう、ちっちゃい地球人
世界を夢見てはばたこう

ホームページからポート・オブ・サクラメント補習授業校の校歌を聞いてみよう
sacramento-hosyuko.org

作詞 林ヶ谷昭太郎
作曲 山田多賀乃



2022年5月 このほり掲揚

世界にはばたく
「ちっちゃい地球人」

本校は一九七八年に創立され、今年で四十五周年を迎えました。アメリカ・カリフォルニア州の州都であるサクラメントは、ゴールドドラッシュに伴って輸送拠点として発展した町で、オールド・サクラメントと呼ばれる地区の周りにはいまでも鉄道と港があります。本校創立の発起人には当時の港湾局長が名を連ね、また創立当初は港湾事務所の一部を借りて授業をしたそう、サクラメント港は学校の名前の由来にもなっています。

本校は創立者、林ヶ谷昭太郎先生の教育理念に導かれて、苦労を重ねながらゆつくりと発展してきましたが、校歌は長い間つくられませんでした。校歌をつくることも、そこに込められた教育の理想と現実が乖離しているという意味がないとの林ヶ谷先生のお考えから、だつたようです。

しかし三十周年を迎えた際、校歌がないのは「さび

しい」という声が出て校歌をつくることになり、林ヶ谷先生が詞を書き、曲は当時の理事の友人である作曲家、山田多賀乃さんに依頼することになりました。林ヶ谷先生は歌詞の内容と曲が調和する心配されたそうですが、理事が山田さんをサクラメントへお招きし、一週間かけて北部カリフォルニアの雄大な自然と町の様子を視察して歌詞の意味を体得していただいたのだそうです。

後日、山田さんから送られてきた三曲を、校長・教頭・理事三名と地元の音楽家が夜中に集まって車の中で聞き比べ、現在の曲が選ばれました。こうして本校の教育モットーである、世界にはばたく「ちっちゃい地球人」とサクラメント近郊の風景が見事に表現された躍動感あふれる校歌が完成し、以来十五年間歌い継がれています。校歌を歌う機会は入学式・卒業式と運動会の年三回ほどしかありませんが、子どもたちは校歌をよく覚えています。校歌に込められた林ヶ谷先生の想いが校風となつて、いまの保護者・先生・児童生徒たちへ受け継がれていることの証しだと思えます。